

### 山寺からメッセージ

山寺観光協会インバウンド部

後藤 麻衣 さん



観光地山寺の土産店ふもとやの娘として、山形で生まれ育ちました。学生時代は、早く山寺を出たい…という思いがありました。高校卒業後、海外や異文化に興味があった私はオーストラリアのケアンズに語学留学しました。ケアンズは、山形のように自然豊かでのどかな場所でした。都会での暮らしに憧れ、その後はイギリスのロンドンに渡りました。

今まで知らなかった国の文化や言語、大都市での生活は大きな刺激となった一方、ふと思いつくのは故郷山寺の生活でした。今まで山と川しかない田舎暮らしを否定的にとらえていました。しかし、季節ごとに移り変わる景色、夏に遊んだ川や、豊かな食文化、あたたかい人々…海外に出て改めて山寺の良さに気づき、もっと多くの人に山寺を知ってほしいという思いが芽生えました。帰国後英会話講師として働き、結婚後子育てをしながら、実家の店の手伝いをはじめました。

年間70万人の観光客が訪れていた山寺。東京五輪・パラリンピックを目前に徐々に増えていたインバウンドの観光客はピークを迎えていました。自分が海外で困ったときに親切にもらった経験から、山寺を訪れる観光客の方々にできる限りの対応をしたいと考えていました。

しかし、英語対応の窓口がなく、緊急時には、私のもとに連絡がくるという状況でした。迷子や落とし物、ケガなどの困りごと増え、山寺全体で海外のお客様を受け入れる体制を整える必要性を感じました。

当時、山形県では日本遺産の取り組みがはじまり、英語ガイドの組織化が本格的に始まりました。コロナ後を見据え、2020年山寺英語ガイドYamaderans（ヤマデランズ）が誕生しました。思いを共有する仲間が増え、たくさんの方々サポートを受け、現在山形県在住のガイド約10名が登録しています。

日本人向けの説明を翻訳するのではなく、ネイティブの目線に寄り添ったガイドマニュアルを作成しました。山形在住の翻訳家リサ・ソマーズさんらと、山寺の歴史や情報を整理し、文化的背景の違う外国人にもわかりやすく伝えられるように考えました。

地域の歴史の勉強や、山寺だけでなく山形全体の観光地、美味しいお店の情報をガイド仲間と共有しながら、来（きた）る日に向けて準備をしているところです。去年はトライアルツアーも実施しました。私の英語ガイドの原体験になっているのが、母校山寺中学校での活動です。中学2年の時に実際に観光客の方に観光ガイドをするという活動がスタートしました。

他にも国際ドキュメンタリー映画祭で海外から訪れた映画監督をガイドしたり、山寺の成り立ちを『山寺ものがたり』として演劇で発表するなど、観光地ならではの取り組みを行っています。山形の子どもたちが将来、地域の魅力を伝える仕事があれば、活躍できるのではないかと、この思いがあります。ガイディングを通し地域の持続性のために、経済循環に寄与できる仕組みづくりをしたいと考えています。

私たちが目指すのは山寺の専属ガイドではなく『山形コンシェルジュ』。お店とお客様をつなぎ、観光のサポートをすること。山形の観光地の紹介や、お客様が必要としている情報を伝えられる人材を育て、山形県の観光コンシェルジュ的な役割を担い、県内の他のエリアと連携し、回遊する仕組みづくりにつなげたいと考えています。

山形には食・人・歴史・文化、素晴らしい観光資源がそろっています。世界中のたくさんの方に山形の魅力を感じてほしいです。その活動を山寺から発信し、山形の観光を盛り上げていきたいです。

5 商工月報 — The Yamagata Chamber of Commerce & Industry